

ひと街にと

No. 40

語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです。
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが、
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら、
いつか来た道まで戻ってみましょう。

かくれ家は “非日常”だった

密林の王者・ターザン——なん
ていつてもいまの子供たちにはわ
かりませんか。そのターザンを気
取ったわけではありませんが、近
所の山にかくれ家をつくって遊び
ましたね。適度に枝が分かれてい
る堅くて折れにくい木を選んで、
枝や木の間にベニヤ板などを渡し

てムシロや草を敷きました。大将
の命令で子分が調達してきたお菓
子なんかを食べながら、意味不明
の作戦会議をやったりも。学校か
ら帰ると一目散に集合したもので
す。いわば子供たちの“非日常”。
仲間意識も育まれた、密度の濃い
コミュニケーション手段でした。

二〇二二年 夏(年四回発行)
発行：(社)印刷紙工
札幌市中央区南一条西十八丁目
TEL(011)561-1598
編集：ひと街にと刊行会
札幌市中央区北一条西十七丁目
北海道不動産会館四階
(株)編集工房海内
TEL(011)631-6651



歴史は閉じても 重要な足。

日頃から通勤や外出に利用している人は別として、最後にバスに乗ったのはいつか覚えていますか。札幌の路線バスが、とうの昔に公営から民営に移管していることも知らない人がいるかもしれませんね。

札幌市営バスが3路線で開業したのは昭和5年(1930)。それ以来、都市の拡大、人口の伸びとともに路線数も増加。地下鉄開通に合わせて整備も進みました。しかしそれは一方で利用のしにくさも招き、またマイカーの普及やラッシュ時の交通渋滞などから人気も低下。経営は悪

化していきました。札幌市が全路線を民間会社に移管したのは平成16年(2004)3月。74年の歴史に終止符を打ちました。

バスの良さの一つは、レール不要でどこでも走れること。郊外に住むお年寄りの足となった

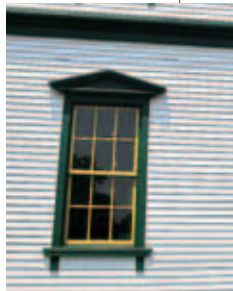


まちのメモリー——札幌市営バス

り、乗り降りに負担のかからない工夫があったり、また地方都市では小規模なコミュニティバスが誕生したりと、心強い味方なのです。



右／勢揃いした観光バスガイド(昭和30)
左／西2丁目の大通バスセンター(昭和37)



時の街角

北海道開拓の村から

●北海道開拓の村 所在地／札幌市厚別区厚別町小野幌五〇一
電話（〇二二八九八）二六九二

本道の初期開拓に大きな足跡を残した開拓使工業局の庁舎。現存する建物としては札幌時計台や豊平館より古い、明治十年（一八七七）の建築です。

欧米の技術導入を急いだ開拓の中核。

旧開拓使工業局庁舎

明治六年に設置された開拓使工業局は、道路・橋梁・官庁・学校などの建設のほか、製材・木工・鉄工といった諸工場の経営も行い、欧米の近代工業の導入に努めました。それらの工場が集中したのが、大通から北一条にかけての、いまでいう創成川東地区。代表的なものがビール工

れるうちに、いつ誰が建てたかも忘れ去られていき、昭和三十九年、ようやく研究者の手で開拓使工業局の遺構であることが判明。そして同四十四年、建物を取得した民間会社が解体作業に取りかかった時に保存措置が取られ、現在の復元された姿があるのです。

場（現サッポロファクトリー）で、この庁舎も大通東二丁目にありました。

しかし開拓使の廃止後、明治、大正、昭和と様々な団体の事務所として使用さ



明治10年(1877)にこんなに洋風の建物
榎ぶき屋根は別としていかにもアメリカの雰囲気



建築が明治十年というのは、札幌時計台(同十一年)や豊平館(同十三年)より古く、開拓使が盛んに取り入れたアメリカ様式の代表建築として最古。榎ぶき屋根の寄棟造で、総二階建。一、二階とも事務所として使用されていましたので、内部にこれといった特徴はみられません。

やはりアメリカ様式の特徴は外観にあります。西洋下見板張、上げ下げのガラス窓、軒回りや大棟両端の飾り、ペンキ塗りの壁、玄関ポーチ

明治四年に開拓使が置かれてわずか六年でこのような建物が中心部に出現したのは、現代に通じる札幌市の若々しさでしょうか。

玄関ポーチのなんとしゃれていること
おまけにこも左右対称のデザイン
どの窓にも布のひしが折り返され
晴れた日には陽ざしを除けてくれる

人のいしぶみ

ホーレス・ケプロン像 (札幌市中央区大通西10丁目)

人の銅像や石碑はその功績を称えたりしのんだりするものですが、どんな人だったのか意外と知らないこともあります。そこで人にまつわるいしぶみと一口知識を。

10月10日は「缶詰の日」

北海道の開拓に欧米の技術を導入するため招かれたホーレス・ケプロン(米)。明治四年から同八年までの任期中はほとんど東京にいて、来道したのはわずかに三回。部下たちを北海道に派遣して様々な調査を行い、道路や鉄道の建設、鉱工業の推進、農水産業の改革な

ど、開拓のほぼ全分野にわたって進言を行いました。それに従って上記の開拓使工業局が実務に着手したのです。そのうちのひとつが魚の缶詰製造。現石狩市に日本で最初の缶詰工場、開拓使石狩缶詰所ができました。河口近くの観光センターの辺りです。明治十年十月十日創業ということで、この日が日本缶詰協会制定の「缶詰の日」になっています。



東を向いて立つ像
北海道に新しい時代の基礎を築いた人物



ケプロンの勧めで缶詰工場が操業したあたり
かつての石狩町役場があったところでその表示も
すぐ裏が石狩川本流、サケの水揚げと直結



まちの仕事

つり具の林

林幹男さん

札幌市東区北二十七条
東二丁目一十二
電話〇一(七五)二四一六四



http://www.turiginohayashi.com/

人がいなくなつたまき餌を使つた磯釣り。幹男さんは最初にそれをホツケ釣りに取り入れ、



釣り人の間では今や普通となっている釣り方や仕掛けのうちのいくつか、実はこちらが発祥とは——釣りのことはあまり知らなくても、量販店にお客を奪われて苦戦している街の

専門店のたゆみない努力は、他の業界にも参考になるはずだ。

父の利男さんが昭和四十三年(一九六八)に創業した「つり具の林」。

現在は長男の幹男さん(六三)が切り盛りしています。ほぼ創業当時から業界の変遷を目の当たりにしており、昭和四十年代後半に「札幌釣具商組合」に加盟していた店が専門店だけで四十四店ありましたよと振り返ります。それが今は組合も解散し、残っている店

量販店のしのご

経験と工夫で

オリジナルを発信。

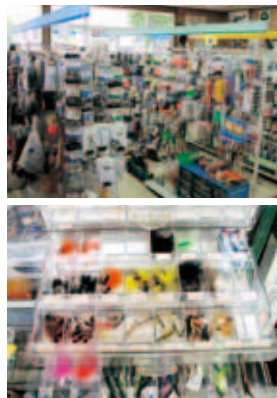
は四軒ぐらいたさそうです。昭和五十年代以降の相次ぐ大型店の参入に、品数と値段では太刀打ちできず、様々なお客獲得のための工夫が始まりま

す。その大きな柱が釣りの運営とホームページによる情報提供、そしてオリジナル商品も含めた道具類のネット販売。中でも釣りは船釣り、磯釣り、ルアーフィッシングの三つの会の運営事務局に。それぞれ年間十回は大会がありますから、こちらを

介して人的交流が大きな財産ですし、情報もあちこちから入ってきます。

オリジナルの仕掛けや道具もご自身の年間三十回は下らないという釣行やお客さんと工夫を重ねながらの成果です。かつて道内ではする

今では最もポピュラーな釣りの一つになっています。こうした研究の一方で「会員は高齢化していきまじ、後継者が育っていない」という幹男さん。これから釣りを始めようとする人たちに基本から教えられ、人が少なくなり、それは端的に釣り人のマナー低下に表れていると、趣味と実益の代名詞だった釣りですが、不景気も手伝って魚離れが心配です。



吟味した道具ばかり並び店内。左下はオリジナルの毛バリ、右はスライド式の陳列ケース。ルアーグッズがびっしり

道具で
道草30年

坂一敬

レトロスペース坂会館館長
〔坂栄養食品開発部長〕

二月二十日、南署からレトロ口に電話があつた。山田さんが死亡しているのが発見されたのだけど、誰か身内の人の心当たりが無いかと言う。大家さんに聞いてもわからないので、レトロ口にかけて来た由。アパートを借りる際の保証人が私だったからだ。

平成最後の香具師。

山田さんはうちの中本がお気に入り、彼女に自分の夢を語っているときが一番楽しそうに見えた。尚子ちゃんは私の女神で、レトロ口は私の聖地だと言ってくれていた山田さん。若い日、血のメーデーに参加して、ピストルの弾の下をくぐった。会社

一目なりとも会いたくも思つたら、遺体の収容を我々が行くまで待つてもらい、中本と二人で駆けつけた。電気毛布にくるまった状態で亡くなったので、遺体は腐敗が進み見せられないと言う。山田さんに初めて会つたのは、レトロ口をオープンしてからもう二十年近くになるのか。いかにも古物商、香具師ヤシがびつたりの感じで、仲間からは銀ちゃんと親しみを込めて呼ばれていた。

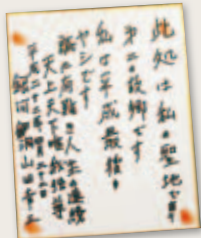


右は山田さんが残した色紙、上はありし日の山田さんと館長、右は職員の中本さん

親しくなり色々話すようになって、山田さん、あんだこの学校出たのさ? 「どうだ、ヒエー恐れ入りました。一呼吸置いて」どうだい、とうだいで俺のは石狩の灯台だ。」

たと言う。一見、香具師のように見えて、そこより一番遠い所に立っていたのかも知れない。

リサイクル屋やアンティーク屋の多い近頃、ひとときわ異彩を放つていた平成最後の香具師、銀河洞 山田幸三。もうこんなタイプの人には会えないと思う。サヨウナラ山田さん! 新盆には北海道御廟に会いに行かなきゃ。



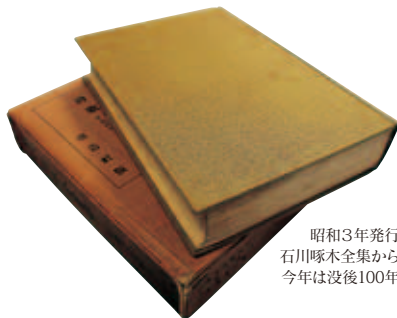


本の話 ② 一つの「かたち」にたくさんの名称

前回「49ページ以上あるのが本」と書きました。パソコンや端末機で読む本が果たして本か——となると異論は多いでしょう。ページといっても単なる画面、情報、記録。本来の本のように美しい部分名称もないのですから。

6世紀に修道士たちが羊皮紙を半分に折って聖句を書き写し、4枚ごとにのどに皮ひもを通して束ねたものが本の原形です。安価な紙と印刷技術の発明により、紙の本がヨーロッパから世界へ広まってきました。

その、のど。本のどの部分かわかりますか。本の中身が背に接するところです。ついでに本の上を「天」、下側の切り口を「地」といいます。そしてのどをのぞいた3辺が「こぐち」。料理の小口切りと同じで、製本の時に切断する部分です。また上製本(ハードカバー)で、のどの天地に付いている布が花布、ヘドバンなどと呼



昭和3年発行
石川啄木全集から
今年(2023年)は没後100年

ばれます。本文の大きさより表紙が少し飛び出しているところが「ちり」。中身が汚れるのを防いでいます。

ずいぶん細かな名称です。本全体をみてもカバー、見返し、遊び、トビラ、本文、奥付、見返しと続きます。見返しには色のついた紙がよく使われます。奥付は発行年月日や著者名、出版

社名が記されています。

ここを見れば初版か、重版かがわかります。売れている本ほど印刷が何回も行われています。写真の本は昭和3年、改造社発行の初版の石川啄木全集です。発行後84年が経過してシミはたくさん出ていますが、美しいかたちに変わりはありません。人に触れられ、ページがめくられた年月が感じられます。これが本。CDや端末に残るものは、記録や情報とも呼ぶべきものではないでしょうか。

● 上製本



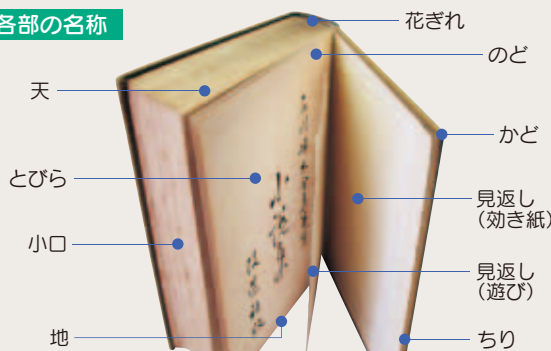
上製本の天の「のど」の部分。ヘドバンも付いている。表紙はボール紙に紙や布などが張られており、装丁にもより工夫が施され、ハク押しになると高価に。

● 並製本



並製本の天の「のど」の部分。厚紙の表紙で本文をくるんでいる。上製本ほどの高級感はないが、コスト的には安価に仕上がるので部数が多い場合は最適。

各部の名称



※上記以外にスピン(しおり)、カバー、帯などが付きます

歴史を重ねていくうちに、人が変

● 記念誌で歴史を残す

お気軽に申し込みたい。グループでもどうぞ。お気軽に申し込みたい。

● 出前でアドバイスを

自分史など本をつくりたいと考

わったり資料が散逸したりします。節目の年に記念誌の制作はいかがですか。企画、編集、印刷、どの段階からでもご用命を承ります。

● 小紙をお送りします

忙しい毎日、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙です。ご希望の方に無料でお送りいたします。印刷紙工までお申し込みください。



本づくり質問箱

本づくりの「？」にお答えします。お気軽に質問をお寄せください。



自分史などを書くときに、資料をそろえることが重要とよく言われますが、どんな資料があればよいのでしょうか。またどこかへ行けば必要なものを見られるものでしょうか。まったく見当がつかないのですが。

大切な資料集めと資料あさり

自分史を書くにあたってまずやるべきことは、自分の年表づくり。それに基づいて原稿を書いていきますが、人の記憶だけでは正確さを欠き、時代背景や地域のことは素通りしがちです。記述を裏付けるものが必要となります。それが資料。自分のことを書くときには何でも参考になります。学校のアルバムや成績表、作品、

家計簿、日記、取ってあった新聞やチラシ——断捨離ブームとはいえ整理する前に、これというものはデジカメに納めておきたいものです。

どうしても一緒に書いておきたい世相や出来事を調べるなら図書館へ。新聞社発行の年鑑や新聞の縮刷版、マイクロフィルムなどが

役に立ちます。マイクロフィルムは戦前のももありますので、年配の方には役に立つことでしょう。

昔の日常生活の実際を知りたいなら、地域の郷土資料館がよいでしょう。住民から寄託された生活用具などが展示されています。本紙に随筆をお願いしている坂さんの「レトロスペース」に行くと、何万点というコレクションが記憶をよみがえらせてくれます。

